たけうまファンド

2022年1月31日基準

運用実績

1ヶ月	3ヶ月	6ヵ月	1年	年初来	設定来
-8.4%	-16.4%	-5.0%	-	-8.4%	1257.0%

※証券口座現在の資産残高基準。投資信託、iDeCo、仮想通貨、FX（外貨証拠金取引）は含まず。
※ 過去の実績データがない期間においては数字を未記載としています。

ポートフォリオ構成

実質株式保有比率		86.6%
	国内株式	47.7%
	海外株式	38.9%
現金（円・ドル）		13.4%

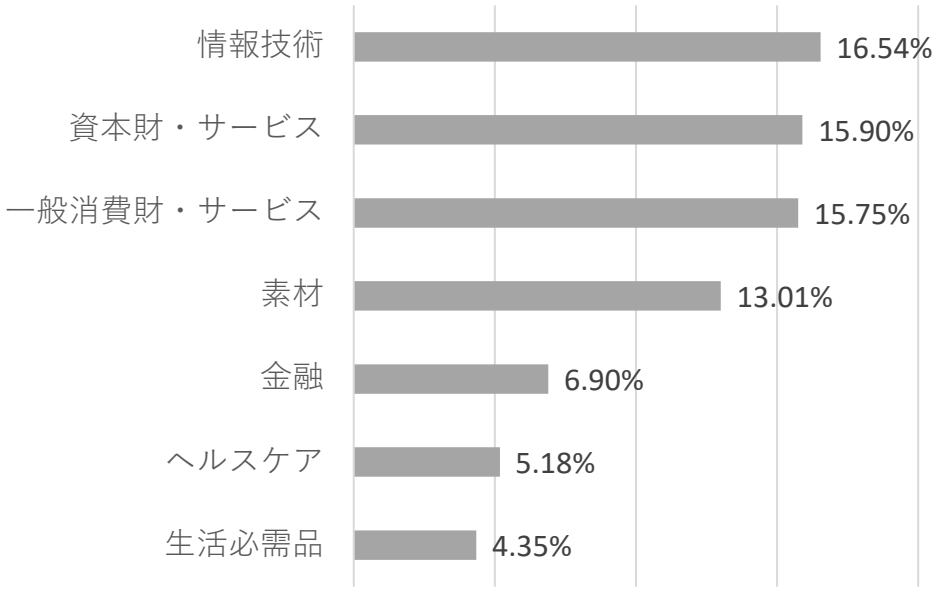
※比率は証券口座の現在の資産残価に対する割合

分配実績

設定来累計分配金　0円

※上記の分配金は過去の実績であり、将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。
※成長ないので分配なし。

業種別組み入れ比率



※ 業種はGICS（世界産業分類基準）によるものです。
※ 日本株については雰囲気でそれらしい業種に分類しています。
※ 優待株は含まず。

たけうまファンド

2022年1月31日基準

たけうまファンドの組み入れ銘柄の状況

組入上位10銘柄

	銘柄名	比率 業種	銘柄紹介
1	ウルトラファブリックスHD （4235）	13.01% 素材	ポリウレタンレザーの製造販売。アニマルフリーである点がとてもESG。テスラ車のシートに採用。
2	ServiceNow, Inc. （NOW）	11.79％ 情報技術	ITSM主力のSaaS。業務の自動化、DXは生産性向上に資するため人手不足・高インフレ下でも需要大。
3	MSCI Inc. （MSCI）	6.90％ 金融	指数を開発販売。株価指数の提供だけにとどまらず、ESGやファクター含めマルチアセット市場狙う。
4	オカダアイヨン （6294）	6.68％ 資本財	解体用アタッチメント。建替え、電炉、バイオマスなどで市場拡大。今期が設備投資のピーク。
5	シンメンテHD （6086）	6.60％ 一般消費財	飲食店厨房メンテからコロナ機に小売りサービス業へ拡大。人手不足と感染対策を兼ねる空調に注力。
6	ベネフィット・ワン （2412）	6.44％ 資本財	福利厚生アウトソーシング。既存客法人への経費精算などHR分野でのアップセル狙う。
7	Tapestry, Inc. （TPR）	5.91％ 一般消費財	コーチやケイトスペード擁する婦人アパレル製造販売。経営危機から復活再生中。コロナ明けに期待。
8	Align Technology, Inc. （ALGN）	5.18％ ヘルスケア	透明マウスピース型歯科矯正大手。口で表情を読み取る文化圏においてきれいな歯並びは重要。
9	CrowdStrike Holdings, Inc. （CRWD）	4.75％ 情報技術	クラウドからスタートしたエンドポイントセキュリティ企業。顧客のクロスセル進み高い営業効率。
10	The Procter & Gamble Company （PG）	4.35％ 生活必需品	パンパースやパンテーン等が有名。店舗棚に置かれる強力なブランドのみを残す戦略で更に強くなった。

※ 上記は組入銘柄の紹介を目的としてたけうまが作成しており、記載銘柄の推奨を行うものではありません。

たけうまファンド

2022年1月31日基準

ファンドおよびマーケットへのコメント

グロース株を大量に保有する当ファンドにとって苦しく、長い1月が終わりました。様々な逆風が吹き荒れる中、一時は二桁台半ばまで進んだドローダウンを月末時点では一桁後半台の下落まで戻せたことを喜びたいと思います。

まずは全体相場の振り返りですが、年明け早々からグロース売りのバリュー買い流れが猛烈に強まりました。日本株ではトヨタ中心に、米国株は資源株中心に買われれる展開。2週目に出た米国小売売上高が予想より悪かったことでFRBのポリシーエラーが懸念されたことから、翌3週では今までは相対的に耐えていた超大型のメガテックも崩壊しはじめ、FOMCでの含みを持たせた声明で不安がピークを打った感じでしょうか。

日本株はエランを売却後は流動性のあるトヨタやロームを売ったり買ったりしてましたが損切りばかりで右往左往。上旬こそ全体ではほとんど食らっていませんでしたが中旬以降一気に下落が加速し、IRから返事があって強気に買えていたニチコンも売却して月末近くになって、余力を守りながらウルファブと下がりすぎていたシンメンテとオカダアイヨンを買い増したところで終わりました。

米国株は大晦日にSaaSを減らして利益の厚いALGNとMSCIを増やしていたのですが、年明け以降はすべて関係なく、むしろ買い増した銘柄がピンポイントで売られていきとても苦しい展開。よかったのはメガテックが耐えてるうちにGOOGLを処分できたことでしょうか。まずかったのはバリューが来てるうちにTPRを買ってしまったこと。ボラティリティが大きくなり寄付き付近だけ見ての売買はリスクが大きくなってきたこともあり中旬にドルはすべて出金しそれ以降はノートレードを貫きました。月末に雰囲気が多少回復してきたところでDOCUをすべて売却しその分をNOWとCRWDに振り替えて終わりました。

対応がすべて下落が始まって大きく下げてからで後手後手になってしまったことと、不安の頂点でも買い出動に動けなかったのは反省のポイントです。ですが、余力の金額を意識し続けたことで全ポジぶん投げするという事態は避けることができ、コロナショックで見事に底売りをかましてしまった二の舞は避けられました。

またウェイト厚めに保有しているウルファブの上方修正と、NOWの好決算に助けられました。シンメンテは上方修正が出なかったことで再度売られてしまいましたが。ファンドの資産総額の推移も大事ですが、保有銘柄の好業績というのが何よりの心の支えになると改めて痛感しました。四半期決算は必要です。

来月以降については、現在余力を保有していることもあり何か買っていきたいという思いはあるのですが、シーズン真っただ中の決算を眺めていてもこの銘柄は絶対買いたいというような強い気持ちが湧いてこないんですね。なので様子見が続くかもしれません。今までの当ファンドの反省点を踏まえると、保有銘柄数が減少してロットが大き目で維持されている、余力が保たれている、新しい銘柄に関心が薄いというのはある意味理想的な状態です。保有銘柄の成長ストーリーを再点検を中心に取り組み、次のチャンスには機敏に動けるよう準備だけは怠らないようにしていきます。

※ 今後の見通しと運用方針は作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等により当該運用方針が変更される場合があります